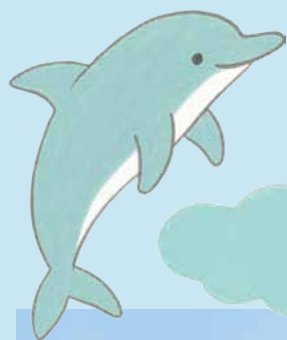




鹿児島大学 水産学部

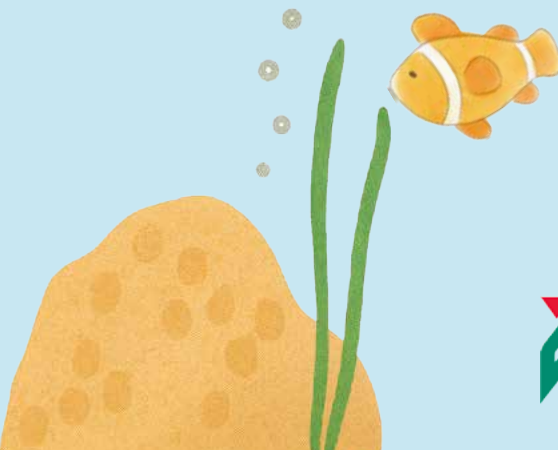


概要

Faculty of Fisheries
Kagoshima University



2026 令和8年度



水産学部卒業生たちが君たちに贈るメッセージ Let's Enjoy 水産 Life !

食品生命科学分野卒業 山本 大嗣



私は水産学部で大好きな海と魚に囲まれた、実のある4年間を送ることができました。中でも仲間の刺激を受けて没頭した魚釣りでは、憧れの魚を追って世界各地へ釣り旅に出かけるなど、水産学部生ならではの唯一無二の経験をすることができました。水産学を幅広く学ぶ中で釣った魚の品質評価に興味を湧き、卒業研究では刺身の食感の物理的解析に取り組みました。卒業後は水産学部で培った経験や知識を活かし、釣りの楽しさを広めたいという思いから、釣具メーカーの研究開発職に就いています。水産学部には、自らの興味関心を探求するための環境が整っています。



水圏科学分野卒業 山本 大樹



私は海と海洋生物に興味を持ち水産学部に進学しました。在学中はカッター部の主将を務め、錦江湾や桜島の綺麗な景色を楽しみながら日々練習に励んでいました。運が良ければ野生のイルカと出会えることがあります！卒業研究では与論島東方沖ソデイカ漁場の海洋環境について研究を行いました。大変だと感じるときもありますが大好きな海、個性豊かな友人、頼りになる先輩方、先生方と過ごした日々はかけがえのないものになりました。現在は環境・建設コンサルタントの技術営業として働いております。みなさんも水産学部で海に囲まれた生活を送りませんか！



水圏環境保全学分野卒業 川崎 晴輝



入学当初の私は、「生き物が好き」という漠然とした理由で水産学部を選び、特段魚に詳しくはなかったわけではありませんでした。しかし、ダイビングをきっかけに水中の世界に魅了され、その美しさと危うさを肌で感じたことで、水圏環境の保全に強い関心を持つようになりました。研究室での学びやサンゴ礁保全のボランティア活動を通じて、現場で何が起きているのかを学び、自ら行動することの大切さを実感しました。過ごせば過ごすほど、水産という分野の奥深さにのめり込み、自らアクションを起こしたくなる。水産学部は、そんな情熱を育ててくれる最高の環境です。



水産経済学分野卒業 村上 諒



私は現在、豊洲市場の卸売会社に就職し、毎日魚に囲まれながら働いています。入学当時の私は養殖業について漠然と興味があったのですが、講義をきっかけに水産物流通に高い関心を持つようになりました。また、部活動で趣味の登山や将棋にも没頭することができ、いくつものかけがえのない体験や仲間ができました。鹿児島大学水産学部のカリキュラムは、1～2年生の期間に水産学について幅広い講義を受講し、3年生からは焦点を絞って深く学んでいきます。自分のやりたいことをじっくりと見極めて、後悔なく学び、熱中できる環境が整えられています！



水産資源科学分野卒業 佐藤 優力



幼い頃から釣りが好きで魚や海に携わる仕事に就きたいと思い、水産学部に進学しました。大学で勉強していくうちに養殖に興味を持ち、研究室では養殖用飼料の研究に取り組みました。飼料についての知識を生かしたいと思い、現在は飼料を扱う企業に勤めています。所属したサークルでは鹿児島本土や離島の大自然の中で仲間たちと釣りを楽しみました。皆さんも豊かなフィールドに囲まれた鹿児島大学水産学部で充実したキャンパスライフを送ってください！



国際食料資源学特別コース卒業 浜口 絵里



国際的な食料問題に関心があり、海外研修が多く国際協力について体系的に学べる水サブコースへの入学を決めました。在学時には中南米、東南アジアへ渡航し、現地の水産局職員と未利用魚のメニュー開発、漁港活性化プロジェクトの計画と漁業者とのワークショップの実施、定置網導入のための漁業制度の解析を行いました。4年間を通し言語や文化、価値観の違う人を動かすコミュニケーション能力や取組を推進する貪欲さが身につく、社会人になっても生かされていると感じます。是非、水サブコースで貴重な経験を積み、これからの人生を豊かにしてほしいと思います。



学部長挨拶

水産学部長 西 隆一郎



昭和21年4月(1946年)に勅令により国立鹿児島水産専門学校が創立され、その後、昭和24年5月に鹿児島大学の設置と同時に水産学部が発足しました。もうすぐ、創立80周年を迎えます。初代学部長山内清内先生が、「海を怖れず、海を愛し、海を拓け」というお言葉(想洋の碑)を遺され、現在でも水産学部の目指すべき大切な指針の一つです。

我が国は、太平洋と、列島西側のオホーツク海、日本海、東シナ海等の縁辺海に四方を囲まれた海洋国家です。日本が権利を有する海域面積は約447万km²で世界第6位です。この海域面積は国土の約12倍にも及び、日本の将来を考えると、適切な管理を行いながら、その資源を有効かつ持続可能な形で、広大な海を大事に利用する必要があります。つまり、この海で働く、多くの水産技術者や科学者が必要なのです。

当学部が所在する鹿児島県は、南北600kmの広がりを持ち、桜島が浮かぶ錦江湾や広大な太平洋・東シナ海、そして離島や熱帯水域など、水産学を学ぶ上で魅力的なフィールドに恵まれています。この海域は、世界で最も重要な交易航路(海路)であるだけでなく、世界自然遺産の屋久島、奄美大島、徳之島も存在しています。ブリ、ウナギなどの養殖生産量やかつお節生産量が日本一の有力水産地区でもあります。そのため、国内外の水産業界と連携した実践的な教育と研究を行っています。また、水産業にとり重要な海洋環境の保全などに関する国際的な教育・研究も行っています。

本学部では、入学した学生達の総合的な資質を高め、将来、社会に貢献できる人材教育を行っています。そのために、①「海洋」を知る:自然のままの、あるいは人間の影響が及んだ海と生物の関係を解明する。②「漁場」を拓く:養殖や漁獲技術の開発、資源管理体制の構築により、水産資源を持続的に効率よく生産する。③「食料」として利用する:鮮度保持・加工・衛生管理技術により水産物の価値を高め、健康機能性物質を開発する。など、水産資源利用プロセスを理解することから始まり、加えて④「生産と消費」をマネジメントする:水産物の流通やマーケティング、漁村社会の活性化や水産政策の立案等社会的課題を解決する。⑤「水域の環境」を守る:食料生産の場である水圏環境を保全し、汚染された環境の修復を目指すことなどに関し、総合的かつ体系的な科目群の履修が可能です。

国内外の水産業を網羅した総合的な知識や経験を当学部で学ぶために、①水圏科学、②水産資源科学、③食品生命科学、④水産経済学、⑤水圏環境保全学に関する5つの分野で教育を行っています。一括入試で水産学科に入学すると、原則として、1年次は教養・共通科目を含めた学修を行い、2年生になると上記5分野から一つを選び専門教育が始まります。例年、卒業生のうち40人程度が修士課程に進学し、100人程度が就職します。多くの卒業生が水産学の専門知識を生かし、水産技術者や研究者として実社会で活躍しています。

本学部は県外出身学生が多く、多様性豊かな学生が集まっています。教員も多様であり、黒潮と気候変動、水産生物の新種発見、水産生物の生理や生態、新養殖魚や養殖技術の開発、水産資源の適正な管理、水産物の栄養や機能性の解明と利用、鮮度保持など食品加工技術の開発、水産物の貿易やマーケティング、将来に向けた水産政策の検討、赤潮や環境汚染物質の分析等、様々な研究を行っています。産業現場やフィールドでの教育を重視しており、練習船や沿海実験場、漁業・養殖業や食品加工・流通業の現場での実習なども頻繁に行われています。留学生や海外からの研修生を多数受け入れるだけでなく、海外留学を積極的に支援するなどグローバル化が進んでいます。そのため語学学習のサポート体制も充実させています。さらに、各種資格取得を目指したプログラム、農学部と連携した教育を行う国際食料資源学特別コース、そして大学院教育(修士、博士)も用意しています。

さて、当学部は、学生・教職員が協力し、夢や活気にあふれた学生で賑わうキャンパスづくりを目指しております。水産学部の敷地は、「我は海の子」が作詞された鹿児島湾(錦江湾)に面しており、海が身近に感じられる環境にあります。海が好き、魚が好き、生物が好き、船が好きなど、そして、世界を身近に感じたい人は、是非、当学部に入學して頂きたいと思っています。また、地域貢献活動、産学官連携シーズの発掘や共同研究も盛んです。地域の皆様や、産業界、行政機関及び公益団体等の皆様におかれましては、引き続きご支援をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

目次

学部長挨拶	1
鹿児島大学水産学部のミッションとアドミッション・ポリシー	1
組織および教員	2
水産学部の教育	3
大学院農林水産学研究科	4
大学院連合農学研究科	4
教育分野等	5
附属海洋資源環境教育研究センター	11
附属練習船 かごしま丸・南星丸	12
職員	13

鹿児島大学水産学部の ミッションとアドミッション・ポリシー

水産学部のミッション

鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとして、水産資源の持続的生産とその合理的利用及び水圏環境の保全・管理の分野で、高度な専門知識を修得し豊かな世界観と倫理観を備えた技術者を社会に送り出すと共に、地域的及び地球的課題に関する研究を推進することで、熱帯・亜熱帯水域を対象とする諸活動で世界をリードする文化を創出し、地域社会と国際社会に貢献する、世界に開かれ進取の精神あふれる水産教育研究機関を目指す。

水産学部のアドミッション・ポリシー

●求める人材像

- (1)海洋環境や水圏の生物に興味を持ち、水産業の基盤である海洋環境や水圏に生息する生物の特性と両者の相互作用についての基礎科学を学び、学校教育や環境教育の現場あるいは海洋環境と生物に関する調査・保全に関わる機関で働きたい人
- (2)水産資源の生産管理や増養殖に興味を持ち、水産資源とその採捕・管理及び増養殖に関する理論と技術について学び、漁業技術産業、増養殖産業あるいは水産資源の開発・管理や増養殖に係る公的機関で働きたい人
- (3)水産食品や水産資源の先進利用に興味を持ち、水産資源の食品としての利用と機能性化成品などへの先進的な利用について学び、食品・化学製品製造業及び製薬業ならびにそれらの関連分野で働きたい人
- (4)水産政策や水産物流通に興味を持ち、水産政策と水産物流通・経済に関連する知識と技術について学び、水産流通業や食品産業、水産系公務員、水産系金融、水産系公的機関などで働きたい人
- (5)水圏環境の保全に興味を持ち、赤潮、有機汚染、有害化学物質汚染(人為的ネガティブインパクト)、水圏環境の保全と修復について学び、環境アセスメントや関連分野及び公的機関で働きたい人
- (6)水産教員、海技士、またはグローバル人材として働くために必要な職業能力を強化し、地域社会に貢献したい人

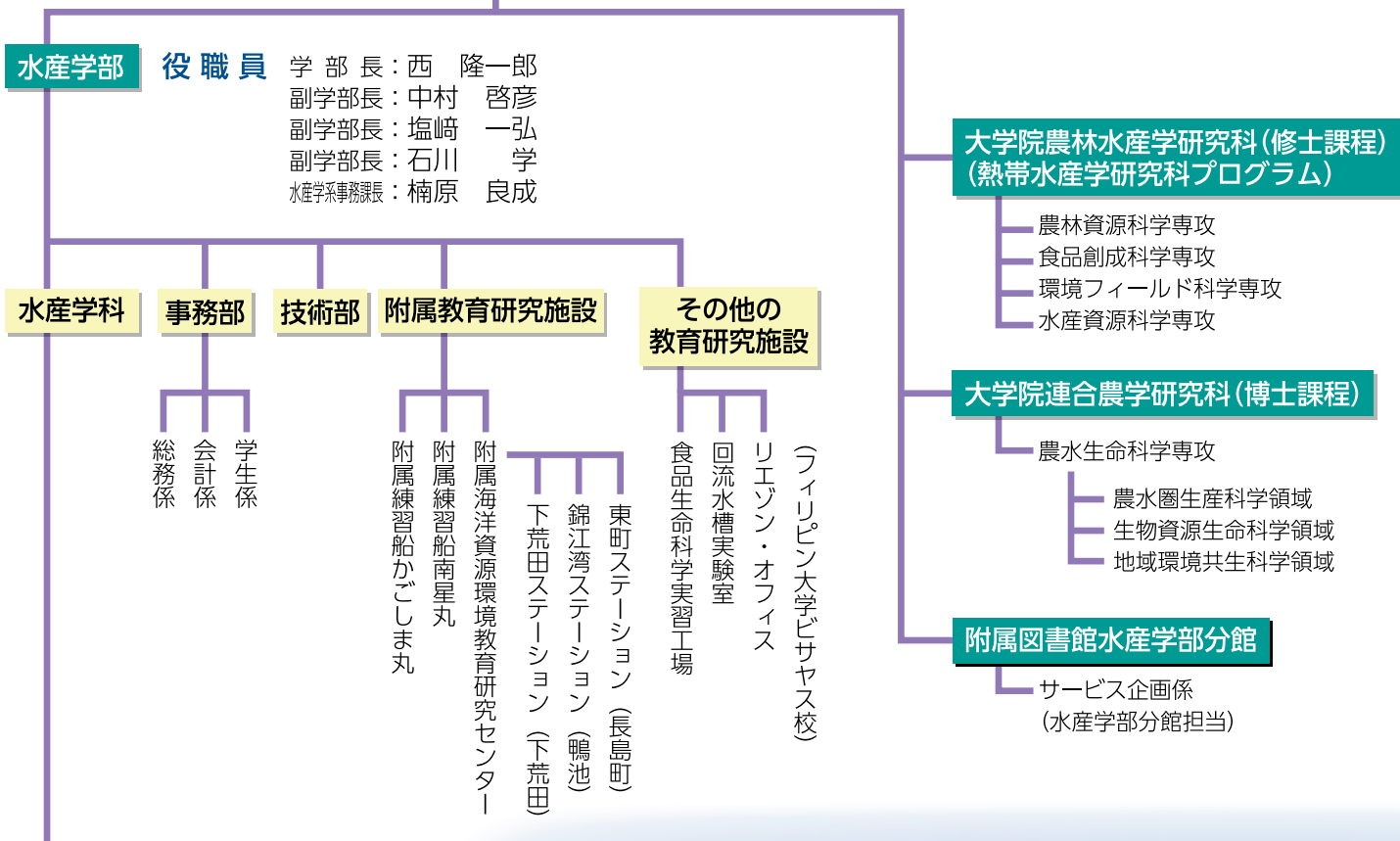
●入学前に身につけておいて欲しいこと

- (1)高等学校で学ぶ国語(読解、文章表現)、英語、数学(数学I、数学II)の基礎学力が必要で。
- (2)専門科目修得のためには、各教育分野に対応した科目(生物、化学、物理、地学等)の学力が要求されます。これらの科目は1年次に習得できますが、理解するための基礎学力が必要で。

学生	13
外国人留学生	14
国際交流	14
就職状況	15
免許・資格等	15
学術刊行物	16
附属図書館水産学部分館	16
土地・建物等	16
建物等配置図	17
アクセス	17

組織および教員

鹿児島大学



○水圏科学分野

教授：小針 統 博士(水産学)
 教授：中村 啓彦 博士(理学)
 教授：西 隆一郎 博士(工学)
 教授：山本 智子 博士(理学)
 准教授：遠藤 光 博士(農学)
 准教授：久米 元 博士(農学)
 助教：小玉 将史 博士(農学)
 助教：須本 祐史 博士(工学)
 助教：堤 英輔 博士(理学)
 助教：仁科 文子 博士(工学)

○水産資源科学分野

教授：安樂 和彦 博士(水産学)
 教授：石川 学 博士(水産学)
 教授：大富 潤 農学博士
 教授：小谷 知也 博士(学術)
 教授：バスケス A. ミゲル 博士(水産学)
 准教授：石崎 宗周 博士(水産科学)
 准教授：江幡 恵吾 博士(水産科学)
 准教授：田角 聡志 博士(農学)
 准教授：土井 航 博士(海洋科学)
 助教：横山佐一郎 博士(水産学)
 助教：張 煜坤 博士(水産学)
 助教：早坂 央希 博士(水産学)

○食品生命科学分野

教授：小松 正治 博士(水産学)
 教授：塩崎 一弘 博士(農学)
 准教授：加藤 早苗 博士(水産学)
 准教授：進藤 穰 博士(水産学)
 准教授：内匠 正太 博士(医学)
 助教：熊谷 百慶 博士(理学)

○水産経済学分野

教授：佐久間美明 博士(水産学)
 教授：佐野 雅昭 博士(水産科学)
 准教授：久賀みず保 博士(学術)
 准教授：鳥居 享司 博士(学術)
 助教：鈴木 崇史 博士(農学)

○水圏環境保全学分野

教授：宇野 誠一 博士(水産学)
 教授：吉川 毅 博士(農学)
 准教授：奥西 将之 博士(水産学)
 助教：國師恵美子 博士(農学)
 助教：山崎 雅俊 博士(水産学)

○国際食料資源学特別コース担当 (兼任)

教授：バスケス A. ミゲル 博士(水産学)
 准教授：石崎 宗周 博士(水産科学)

○海技士養成と水産・海洋教育に関わる分野担当

助教：佐藤 太一 修士(海洋科学)

○附属練習船

准教授：幅野 明正(船長)
 准教授：東 隆文(船長)
 助教：福田 隆二(首席一等航海士)
 助教：牧野 文洋(一等航海士)
 助教：畑辺佳奈子(二等航海士)

○附属海洋資源環境教育研究センター

センター長・教授：安樂 和彦 博士(水産学)
 教授：宇野 誠一 博士(水産学)
 教授：吉川 毅 博士(農学)
 助教：國師恵美子 博士(農学)
 助教：早坂 央希 博士(水産学)
 及び 兼任教員 16 名

水産学部の教育(令和9年度～)

水産学部とは水産業という食料生産産業を背景に有する学部です。本学部は数少ない水産学部のうち最南端に位置しており、地理的な特性を生かして東南アジアから南太平洋までも視野に入れたグローバルな水産教育を行っています。

入学後は全員が同じ水産学科学生として共通した教育を受けます。自然科学、社会科学、情報処理、外国語(英語)を中心とした「基礎教育」がその中心です。水産学は幅広い、大きな学問分野です。その基礎的部分も1年生の段階で全員が学びます。また大学は就職のための準備期間でもあります。社会人になるための準備も、1年生からすこずつ進めていきます。現実社会に目を向けた大きな意識改革が求められます。

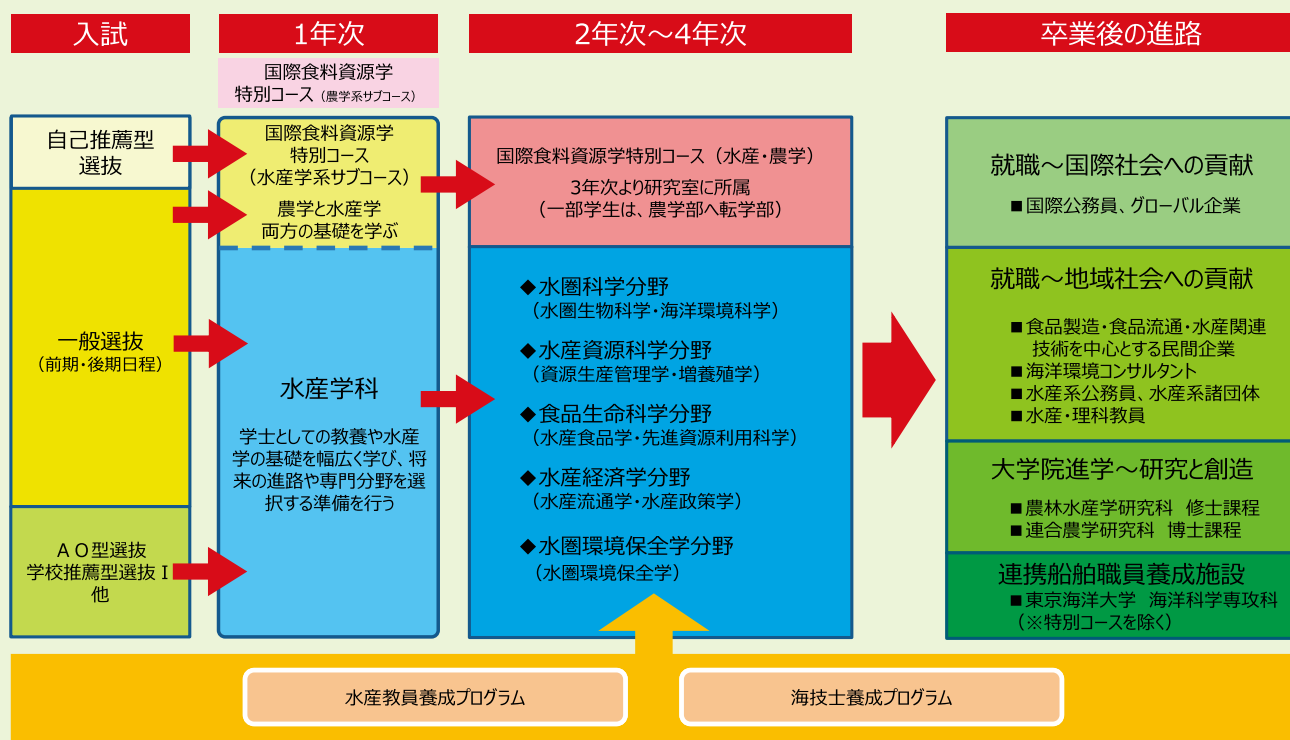
1年生で学んだ水産学の知識と職業観を基にして、2年次になる際に各自が所属する専門分野を選択します。水圏科学分野、水産資源科学分野、食品生命科学分野、水産経済学分野、水圏環境保全学分野の5分野から選ぶことができます。将来自分がどのような人材として社会に貢献したいのかをしっかりと考えることが大切です。

こうして2年生からは次世代の水産人を育成するために、5分野に分かれて、それぞれの人材養成目標に向けた「専門教育」を行っています。自ら学ぶ力や生涯学習能力、グローバル化社会への対応能力等を含む学士力の開発にも重点をおいた教育を行っています。

さらに、学生や就職先からのアンケートなどを行って、教育内容の見直しと改善を常に行っています。学生満足度No.1の学部、水産業界への就職に強い学部、グローバル化に対応できる国際的学部であることが本学部教育の大きな目標です。

その結果、十分な専門知識を備えた水産人として、多くの学生(大学院に進学した学生含め)が水産物流通や加工などの食品産業、漁業・養殖関連技術産業、環境関連産業、公務員などに就職し、水産業の発展に貢献しています。

国際食料資源学特別コースでは、1年次から、水産学部と農学部の両方で教育を受けながら、食料資源に関する知識を習得しつつ、国際的感覚を養えるように語学教育も重要視した教育を受けます。2年次以降、専門性を深めた教育を行い、3年次に研究室に配属されます。4年間で4年次の短期留学を含む「卒業プロジェクト」など、海外研修をカリキュラムに設定しながら、国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とします。



水産学の専門性以外に職業能力を開発したい学生のため、2つの教育プログラムを設置します。希望する学生は、1年終了時にこれらのプログラムに登録します。プログラムはどの学生でも登録できます。ただし、特別コースの学生は、プログラムを選択・登録できません。

1. 水産教員養成プログラム

水産系高等学校教員の養成を目的とします。高等学校教諭一種免許状(水産)と併せて同(理科)、中学校教諭一種免許状(理科)を取得することも可能で、水産系だけでなく、理系科目も担当できる教員を養成します。

2. 海技士養成プログラム

東京海洋大学海洋科学専攻科に進学し、三級海技士(航海)及び関連資格を取得するために必要な、学士課程段階での教育を行います。

大学院農林水産学研究科

大学院農林水産学研究科（修士課程）は、国内有数の食料供給基地である南九州から東南アジア・南太平洋を視野に、人々の健全な生活基盤である農林水産業・食・環境・生命科学の分野の高度専門教育を行い、資源の持続的生産とその合理的利用及び環境保全に対応するスペシャリストの養成を目指しています。これによって、急速にグローバル化する産業構造の変化、地球規模での環境変動、ならびに地方で特に深刻な労働力人口の激減など、地域と世界が直面する課題の解決に貢献しようとするものです。

熱帯水産学国際連携履修プログラム

鹿児島大学では平成27年度から熱帯水産学国際連携履修プログラムがスタートしました。当履修プログラムは下記の研究科熱帯水産学プログラム（ILP）に基づき、鹿児島大学大学院研究科の教育目的に加えて、熱帯・亜熱帯水産業に関する学術の理論及び応用に関する知識及び技術を習得し、グローバル社会で活躍できる能力が涵養された人材を育成することを目指しています。

研究科熱帯水産学プログラム（ILP）とは、鹿児島大学農林水産学研究科に加え、インドネシア国サムラトランギ大学水産・海洋科学研究科、ボゴール農科大学、マレーシア国マレーシア・トレンガヌ大学水産・養殖学研究科、フィリピン国フィリピン大学ピサヤス校水産・海洋科学研究科、タイ国カセサート大学水産学研究科、ベトナム国ニャチャン大学大学院、台湾国立嘉義大学生命科学院が連携し、共通するルールの下に共同で構築・運営する国際的な大学院教育プログラムです。国際間で1つの国際連携プログラムを多数の客員教員により一体的に共同運営する試みは日本で初めてのものです。

当履修プログラムはこの国際連携プログラムの一部を構成するものであり、コース学生は鹿児島大学農林水産学研究科に在籍しながら、これら海外の参加大学研究科において講義や実習を受講したり、修士論文研究の指導を受けたりすることができます。履修プログラム学生はILPの学生として、全参加大学研究科が共同で教育し、グローバル人材として育成していきます。

当履修プログラムが開講する科目は英語・日本語または日英両語で行われます。また海外で受講する講義はすべて英語です。留学生との交流も日常的に行われ、英語に親しみながらグローバルな人材を育成していきます。詳しくは鹿児島大学大学院農林水産学研究科ホームページ（<https://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/agrifish>）をご覧ください。



フィリピンをフィールドとした海外共同調査

大学院連合農学研究科

農林水産学研究科修了後は、鹿児島大学大学院連合農学研究科に進学し、博士号の取得を目指すことができます。連合農学研究科は、日本の食料生産基地である九州・沖縄において、農水産業のさらなる発展を目指し、環境と調和した安定的な食料生産および技術革新を担う指導者の養成を目的に、佐賀大学、琉球大学と鹿児島大学が連合し、多彩な教員組織を構築して、研究施設及び設備も連合しながら教育研究体制を作り、社会・世界に貢献する博士を輩出する博士課程大学院です。温帯から熱帯資源の生産・利用を中心に地域・国際農水産学、環境農水産学及び先端生命科学に関する高度の専門的能力と豊かな学識をそなえた研究者を養成し、斯学の進歩と農水産業および地域の発展に寄与することを目的としています。詳しくは鹿児島大学連合農学研究科ホームページ（<https://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/>）をご覧ください。

水圏科学分野

海洋環境のしくみや水生生物の生き方を科学的に理解し、
海洋生態系に関する専門知識を習得します！

水圏生物科学コース

水圏に生息する動植物について、分類や形態、生理・生態学的特徴や生息環境との関わりを、理論と実技の両方から学びます。また、実験実習を通して、水圏生物の採集と飼育の技術や野外調査の手法を身につけていきます。



SCUBA潜水による海藻(ヒジキ)の生態調査



奄美大島の砕波帯でのサーフネットによる魚類調査

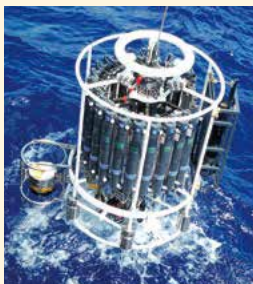


SCUBA潜水による魚類調査(卒業研究で連携・総合研究博物館 本村浩之教授)

河川・干潟・沿岸域・外洋域などフィールドでの調査・実習が充実しており、生物三味の大学生活が送れます。

海洋環境科学コース

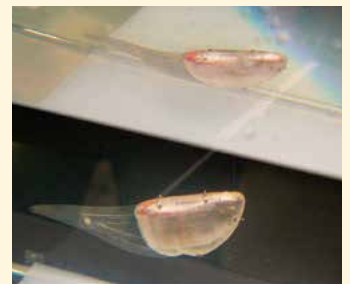
海洋環境の自然科学的な理解、海洋環境の保全・利用に関わる工学的な応用について教育し、これらを基礎とする幅広い関連分野へ学生を輩出することを目指しています。さらに将来、様々な専門分野に柔軟に対応できる能力を養うため、数学、物理学、情報処理学等の基礎教育に力を入れています。練習船「かごしま丸」で黒潮などの海洋環境調査を行っています。



沿岸から外洋までの幅広い海や気象について観測を行い、データ解析と数値シミュレーションで理解を深めます。



ドローンを利用した沿岸域の測量や環境調査の技術開発を行います。



水中で動く小型魚型ロボットの開発を行います。

「フィールドは海岸から大洋まで、深海から天空まで」を合言葉に、科学と技術の両面から海洋環境にアプローチします。

所属教員

教授：小針 統・中村啓彦・西 隆一郎・山本智子
准教授：遠藤 光・久米 元

助教：小玉将史・須本祐史・堤 英輔・仁科文子

水産資源科学分野

食料資源として重要な水産生物の生態や行動、
生産技術、増養殖技術を学びます！

資源生産管理学コース

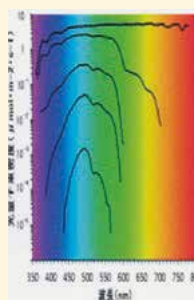
水産生物資源を持続的に利用するために、フィールド調査や飼育実験を行い、生物の生態や行動習性の解明、さらに効率的な漁業技術の開発を行います。これらの知見を活用した、生物資源の評価や適切な管理方法、漁業生産技術開発に関する教育・研究に取り組んでいます。



南星丸に乗船して鹿児島湾の深海生物を採集し、種組成や生態を調べます。未利用・低利用水産資源の有効利用も目指します。



2年生対象の学生実験風景。魚の種類、性、年齢等の資源解析に必要な情報を得る調査方法について学びます。



鹿児島湾の水中光の計測、魚の眼の色(光の波長)感度の計測、魚群探知機による遊泳層の計測を行い、魚群行動と光の関係を調べます。



増養殖学コース

増養殖による効率的な資源生産を達成するため、養殖漁場におけるフィールド調査や陸上水槽を用いた飼育実験および生物・化学分析を行い、対象となる生物の成長、生理や生産効率を調べます。これらの知見を活用した、種苗生産、配合飼料および魚病対策に関する教育・研究に取り組んでいます。



成分の異なる配合飼料が養殖魚の成長や健康状態へおよぼす影響を評価します。



プランクトンの栄養成分を分析して、養殖種苗の成長や生残を高める生物餌料を発見します。



3年生対象の学生実験風景。魚の解剖とスケッチ、魚体成分の分析、魚病細菌の性状試験、免疫能の測定等を行います。



魚病の原因となる細菌や寄生虫の生態を解明し、効果的な疾病対策を開発します。

所属教員

教授：安楽和彦・石川 学・大富 潤・小谷知也・バスケス A. ミゲル
准教授：石崎宗周・江幡恵吾・田角聡志・土井 航

助教：横山佐一郎・張 焜坤・早坂央希

食品生命科学分野

水圏生物資源を食品や医薬品へと応用するための
専門知識や先端技術を習得します！

水産食品学コース

栄養やおいしさなどの原料特性を最大限に引き出し、食中毒などの危険のない安全で健康に良い水産食品を開発するための理論や技術に関する教育・研究に取り組んでいます。また、食品工学的・食品生化学的な解析による魚介類の鮮度保持研究、血液・血リンパ中の酸素運搬体の研究、ならびに有用低分子化合物の単離と構造解析も行っています。



食品の鮮度や加工に関連するタンパク質を解析し、特産品を利用した新製品の開発などを行っています。



水産食品製造学実習では、魚肉ねり製品や缶詰等の製造を通して工程管理、衛生管理、品質評価法などを学びます。



3年生の実習では食品中の成分分析、微生物検査や、HACCP基準の衛生管理の実践を学びます。

先進資源利用科学コース

水圏生物資源の有効利活用に関して、機能性食品の開発ならびに創薬等の先進的応用展開をめざすため、生化学ならびに分子生物学的な先端知識と先端技術を習得します。水圏天然化合物や重金属化合物の薬学的・毒性学的な解析を培養細胞や小型魚類を用いて行い、人間への健康影響を評価するとともに人間の疾患モデル動物の開発やそれを用いた創薬研究も行っています。



電気泳動やクロマトグラフィーなどの分析手法を用いて、機能性を示すタンパク質や成分を食品や水生生物から見つけだします。



鹿児島県の生物資源を対象に、遺伝子・タンパク質解析やヒト疾病モデル魚類試験により健康機能性物質を研究し、私たちの健康の保持・増進を目指しています。



クリーンベンチでは、ヒトや魚類由来の細胞を培養し、有用遺伝子の解析や機能性物質の評価を行います。(左写真は遺伝子導入したヒト細胞)

所属教員

教授：小松正治・塩崎一弘

准教授：加藤早苗・進藤 穰・内匠正太

助教：熊谷百慶

水産経済学分野

水産業や食品産業の現場で学び、
即戦力となる問題解決能力を養成します！

水産流通学コース

「食」と「水産物商品」の専門知識を通じて社会に貢献する即戦力人材を育成することが教育目的です。そのため、水産物流通構造とその変革、食品加工産業の機能や再編、水産物消費の実態や正しい食育、食品のマーケティングや輸出拡大について、食品産業の最先端で実践的な教育を行っています。



環境認証制度についてWWFなどと議論し、政策に反映させます。



海外でもマーケティング調査を行っています。



水産加工業の動向やその商品開発戦略を学び、成果を発表しています。

水産政策学コース

漁村振興、漁業管理、漁協・漁業経営など日本の水産業について幅広く学び、水産業の持続的な発展を公益的な視点から考えられる人材を育成します。漁村、漁業、行政と密着した教育を行い、水産業に関する現実的かつ幅広い知識の獲得に努めます。



養殖現場での実態調査を行い、新しい養殖経営の研究を行っています。



新技術が満載の中型イカ釣り船に興味津々の学生達。



漁船に乗船して操業現場の見学を行い、問題の発見に努めています。

所属教員

教授：佐久間美明・佐野雅昭

准教授：久賀みず保・鳥居享司

助教：鈴木崇史

水圏環境保全学分野

美しい海の環境を守り修復するための
知識や技術を学び、社会に貢献します！

微生物学研究室：微生物の視点から水圏環境保全に関する 教育・研究に取り組んでいます

- ①南九州海域での現場調査（水質モニタリング）を通じて赤潮発生メカニズムを明らかにしようとしています。
- ②分子生物学的手法を用いて赤潮原因藻類の現存量を調べています。
- ③海藻のアオサを使って養殖場に発生した赤潮を防除する研究をしています。
- ④海洋環境、底泥、土壌など様々な自然環境中の微生物生態を明らかにしようとしています。



南星丸を利用して鹿児島湾内の赤潮調査をおこなっています。



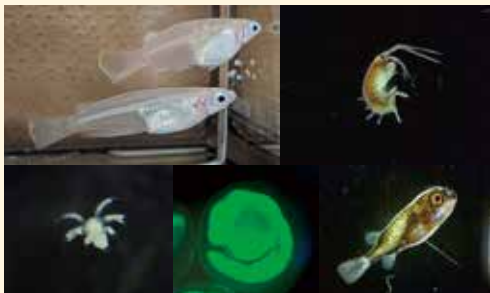
甌島の貝池に生息する光合成細菌を調べています。



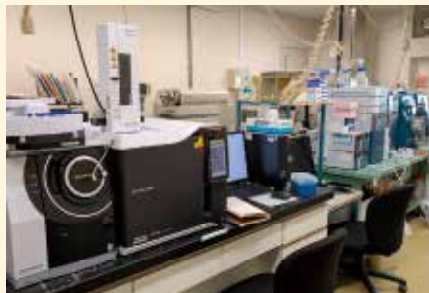
オートアナライザーを用いて栄養塩濃度を測定しています(水質モニタリング)。

環境保全学研究室：環境汚染物質の水生生物に対する影響や環境修復に関する 教育・研究について取り組んでいます

- ①日本だけでなく東南アジア各国沿岸域や河川において、石油や内分泌攪乱物質などの環境汚染物質の汚染レベルを調査し、環境修復のためのデータを構築しています。
- ②魚類を初めとする様々な水生生物に対する環境汚染物質の毒性影響とその発現メカニズムについて調べています。
- ③水生生物に対する化学物質影響を見出すために、新しい影響評価法を開発しています。



環境汚染物質の毒性影響やその発現メカニズムについて調べるため、様々な水生生物を用います(海産メダカ、海産ヨコエビの一種、クルマエビのノープリウス幼生、発生段階の魚胚、クサフグ稚魚)。



GC/MS(左)やLC/MS/MS(右)などの分析機器を用いて水、泥や生物などの環境試料中の化学物質を分析します。



実環境中の生物や泥試料を採取し、化学物質の分布や生物影響を調査します(写真はサンプリング風景)。

所属教員

教授：宇野誠一・吉川 毅

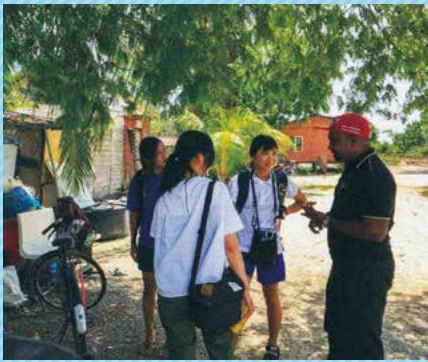
准教授：奥西将之

助教：國師恵美子・山崎雅俊

国際食料資源学特別コース

総合的・複合的な視野から地球の食料問題の
解決に取り組むことのできる人材を育成しています！

水産学部が農学部と共同で取り組んでいる本コースでは、国内にいながら豊かな世界観と倫理観を育める国際的な環境で、東南アジア・南太平洋を中心とした国際社会を対象として、食料資源の持続的生産とその合理的利用などの専門知識を修得することにより、グローバル化する産業社会に積極的に参画し、国際社会に貢献できるようになることを目指します。



マレーシアの漁村調査



海外研修での世界遺産訪問



海外研修でのSEAFDEC視察



協定校のフィリピン大学ビサヤス校を訪問



卒業プロジェクトでの聞き取り調査



研修での余暇

所属教員

教授：バスケス A. ミゲル・*坂上潤一

准教授：石崎宗周・*ムンデランジ C. フェスターガード・*池永 誠・*香西直子・*坂尾こず枝

*農学部教員

附属海洋資源環境教育研究センター

海の環境調査や飼育実験に最適!

東町ステーションはフィールド調査テクニック向上に最高のロケーション!



東町ステーション

魚類養殖に関する研究や漁場環境学、養殖学の実習などに広く利用されている。小型調査船および宿泊施設有り

センターの役割と機能

水産学部下荒田ステーション、東町ステーションおよび錦江湾ステーションに、各種分析機器、小型船舶やフィールド調査機材を豊富に揃え、水産学部および国際連携プログラムの教育・研究に貢献します。

センターの施設紹介

- 下荒田ステーション(下荒田)、東町ステーション(長島町)および錦江湾ステーション(鴨池)に施設を有します。
- 下荒田ステーション:各種分析機器、潜水機材を整備し、主に環境サンプルの各種分析を行います。
- 東町ステーション:宿泊施設(定員32名)、小型船舶(定員12名、ただし実習時のみ30名)、大小水槽を完備し、養殖学、漁場環境学などの各種実習、漁場環境調査などをサポートしています。
- 錦江湾ステーション:各種タイプ的水槽で、濾過海水を使った魚類、エビ類などの飼育実験を行います。小型船舶を整備し、鹿児島湾での実習、研究をサポートします。



錦江湾ステーション

各種魚類養殖技術開発のための飼育実験用施設

所属教員

センター長・教授：安樂和彦
教授：宇野誠一・吉川 毅

助教：國師恵美子・早坂 央希
及び 兼任教員16名

附属練習船 かごしま丸・南星丸

スマートで、目先がきいて、几帳面、負けじ魂これぞ船乗り
フィールドに対応できる水産人になろう！ 大型船舶の航海士を目指そう！



かごしま丸

全長67m、幅12m、総トン数935トン、学生・教員定員44名で日本沿岸から東シナ海、琉球列島、南西部太平洋を実習海域として1週間から40日程度の中長期航海を行っています。

年間約17航海を行い、各種漁業実習・黒潮流域や漁場の海洋観測および海洋生物調査・船の運航に関わる航海実習等を実施しています。

文部科学省より全国共同利用拠点に認定され、他大学の乗船実習さらには国際的な研究プロジェクトにも利用されています。

南星丸

全長42m、幅7.5m、総トン数175トン、学生・教員定員16名で鹿児島湾、九州沿岸および南西諸島周辺を実習海域として日帰りや3日から5日の短期航海を行っています。

年間約80航海を行い、多くの学生・教員・研修者が乗船し海上での教育研究を行っています。主な寄港地として山川、種子島、硫黄島などがあります。



練習船での教育の目的

水産学教育としてのシーマンシップを養う場です。洋上という特殊な環境を長期に経験することによって、現場対応能力を向上させるだけではなく、規律ある集団行動や自分で考えて判断する力を育てます。また水産系の高度洋上技術者や航海士を育てています。

練習船による実習の内容

- 乗船初期教育と一般的な実習
- 漁業系の調査観測実習
- 生物・資源系の調査観測実習
- 海洋物理系の調査観測実習
- 船舶運航技術系の実習
- 食品科学系の実習
- その他の実習

※かごしま丸は、熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための全国共同利用拠点として認定されています。



所属教員

准教授：幅野明正・東 隆文

助教：福田隆二・牧野文洋・畑辺佳奈子

職員

教育職員現員

(令和8年5月1日現在)

区分	水産学科	附属教育研究施設			合計
		かごしま丸	南星丸	海洋資源環境 教育研究センター	
教授	13			2	15
准教授	12	1	1	0	14
講師	0	0	0	0	0
助教	10	3	0	2	15
合計	35	4	1	4	44

事務・技術系職員現員

(令和8年5月1日現在)

区分	事務室及び 研究室	附属教育研究施設		合計
		かごしま丸	南星丸	
事務職員	12			12
技術職員	9			9
海事職員		17	8	25
合計	21	17	8	46

学生

水産学部

(令和8年5月1日現在)

区分	入学定員	1年	2年	3年	4年	合計
水産学科	130	134 (30) ②	131 (32)	150 (31) ②	142 (35) ①	557 (128) ⑤
国際食料資源学特別コース (水産学系サブコース)	10	10 (1)	10 (5)	13 (7) ①	14 (6)	47 (19) ①

※外国人留学生は○内数字、女子学生は()内数字で内数で示す。

入学者出身地別内訳(令和8年度入学生)

北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州※	沖縄	その他
4	2	19	15	21	11	2	66	2	2

※九州地区内訳(再掲)

福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島
16	1	3	2	6	10	28



年度別入学者出身地内訳

大学院農林水産学研究科(修士課程)

(令和8年5月1日現在)

区 分	入学定員	1年	2年	合 計
農 林 水 産 学 研 究 科	101	122 (59) ⑰	117 (48) ⑱	239 (107) ㉓

※外国人留学生は○内数字、女子学生は()内数字で内数で示す。

研究生等

(令和8年5月1日現在)

研究生	2 (2) ②	科目等履修生	0 (0)
特別研究生	2 (1) ②	特別聴講学生	0 (0)

※外国人留学生は○内数字、女子学生は()内数字で内数で示す。

◎ 外国人留学生 (大学院生(修士・博士)、研究生等を含む)

中国 (11)、韓国 (3)、バングラデシュ (1)、フィジー (2)、マラウィ (1)、パキスタン (1)、インド (1)、ノルウェー (3)、ペルー (2)



外国人留学生出身国および学内所属の詳細 (令和8年5月1日現在)

◎ 国際交流 (協定大学等名)

釜慶大学校、群山大学校、済州大学校、韓国海洋科学技術院 (韓国) 大連海洋大学、浙江海洋学院大学、上海海洋大学、自然資源部第2海洋研究所、華中農業大学水産学院 (中国)、東南アジア漁業開発センター (国際機構)、カセサート大学 (タイ)、ハサヌディン大学海洋科学・水産学部、フィリピン大学、サンカルロス大学文理学部、ヴィサヤス州立大学トロサ校 (フィリピン)、国立高雄科技大学、国立台湾海洋大学、国立嘉義大学生命科学院 (台湾)、海洋科学技術大学 (エリトリア国)、バングラデシュ農業大学 (バングラデシュ)、ニャチャン大学 (ベトナム)、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学 (トルコ)、トロムソ大学生物水産経済学部 (ノルウェー)、マレーシア科学大学、スルタン ザイナル アビディン大学 (マレーシア)、マグダレナ大学 (コロンビア)、大学院国際連携プログラムの形成のための包括協定 (サムラトランギ大学 (インドネシア)、フィリピン大学ビサヤス校 (フィリピン)、カセサート大学 (タイ)、マレーシア・トレンガヌ大学 (マレーシア)、ニャチャン大学 (ベトナム)、ボゴール農科大学 (インドネシア)、国立嘉義大学 (台湾))

● 就職状況

令和7年度の卒業生就職状況 (令和8年5月1日現在)

事項	課程	学部学生
卒業者数		143 (39)
進学者数		62 (16)
就職希望者数		76 (22)
求人件数		74
就職者数		74 (21)
就職希望者就職率		97.4 (95.5)

令和7年度の主な就職先

漁業・養殖業

共和水産、Umios Fish Lab

食品製造・食品流通企業

林兼産業、東都水産、うおいち、Umios、スクレッティング、マリンフーズ、Umios広洋、大水、日清丸紅飼料、敷島製パン、福岡県魚市場、日和産業、西原商会、九州中央魚市、丸紅シーフーズ、東洋冷蔵、極洋、ニチモウ、神港魚類、シジシージャパン、明治、日本アクセス、ヒガシマル、東洋水産

環境関連産業

アース環境サービス

水産関連諸団体等

静岡県漁業協同組合連合会

水産・海洋系公務サービス

水産庁、鹿児島県、鹿児島市、熊本県、大分県、北海道庁、いおワールドかごしま水族館

教員

愛知県立高等学校

金融・保険業等

鹿児島銀行

その他鉱工業等

日本理化工業、名村造船所、グローブライド

その他サービス業等

GMOペパボ、リンクレア、ラネット、アイキューブドシステムズ、東京海上日動システムズ、テクノプロ・デザイン社

非水産系公務員等

九州農政局、鹿児島県、鹿児島市、防衛省海上自衛隊

* 赤字は鹿児島県に在籍する企業等

地区別就職先内訳

鹿児島	16 (7)
九州内	7 (3)
中国・四国	4 (0)
近畿・中部	14 (7)
関東	30 (4)
その他	3 (0)
計	74 (21)

産業別就職先内訳

農・林・漁業	2 (1)
鉱・建設業	3 (1)
製造業	19 (3)
卸売・小売業	17 (4)
金融・保険業	1 (0)
不動産業	0 (0)
運輸・情報通信・電気・ガス	10 (2)
医療・非営利・サービス業	8 (6)
教員	1 (1)
公務員	12 (2)
自営業・その他	0 (0)
教育学習支援	1 (1)
計	74 (21)

※女子学生は（ ）内数字で内数で示す。



その他の年度も含めた就職先詳細



水産学部卒業生の進学先

● 免許・資格等 取得可能な資格等

水産学部	水産学科	高等学校教諭一種免許状（水産・理科）、中学校教諭一種免許状（理科）、食品衛生監視員（任用資格）ならびに食品衛生管理者（任用資格）、学芸員（任用資格）、三級海技士*（航海）（受験資格）
	国際食料資源学特別コース・水産学系サブコース	高等学校教諭一種免許状（水産）

※卒業後に東京海洋大学海洋科学専攻科への進学が必要

● 学術刊行物

鹿児島水産専門学校研究報告
第1巻(1950)
後に「鹿児島大学水産学部紀要」と改題

鹿児島大学水産学部紀要 ISSN 0453-087X
第2巻(1952)～第74巻(2025)
(2016年以降は鹿児島大学リポジトリに掲載)

Mini Review and Data File
of Fisheries Research ISSN 0389-6536
第1巻(1980)～第8巻(1999)

BULLETIN OF MARINE RESOURCES
AND ENVIRONMENT ISSN 1346-9274
第9巻(2001)～第10巻(2003)
(2005年より鹿児島大学水産学部紀要と統合)

● 附属図書館水産学部分館

蔵書数

(令和8年3月31日現在)

区分	図書(冊)	雑誌(種)	新聞(種)
和漢書	45,733	2,574	6
洋書	14,128	1,141	1
合計	59,861	3,715	7

※鹿児島大学附属図書館は外国雑誌センター館(農学系)に指定されており、それには水産学関係の雑誌が含まれている。

● 土地・建物等

土地

区分	面積(m ²)
学部敷地	52,098
東町ステーション敷地	16,902
錦江湾ステーション敷地	5,084
合計	74,084

別表1【実験研究棟面積内訳】

1号館 …… 4,207m²
3号館 …… 800m²
5号館 …… 1,613m²
実験実習支援棟 …… 147m²
計 …… 6,767m²

別表2【その他面積内訳】

変電室 …… 127m²
車庫・倉庫 …… 106m²
運転手控え室 …… 10m²
用具保管庫 …… 12m²
ポンプ室 …… 16m²
倉庫(旧守衛室) …… 25m²
倉庫(1号館北側) …… 19m²
薬品庫 …… 7m²
器具保管庫(2号館屋外) …… 17m²
器具保管庫(5号館屋外) …… 17m²
倉庫(3号館屋外) …… 16m²
倉庫(古紙置場) …… 7m²
冷凍室 …… 13m²
計 …… 392m²

建物

区分	延面積(m ²)
実験研究棟	6,767 (別表1)
2号館(総合研究棟)	1,626
4号館	1,303
大型回流水槽実験棟	197
6号館	715
水圏生物標本棟	162
図書分館	795
その他	392 (別表2)
海洋資源環境教育研究センター 東町ステーション	1,284
海洋資源環境教育研究センター 錦江湾ステーション	2,136
合計	15,377



養殖場で給餌の体験



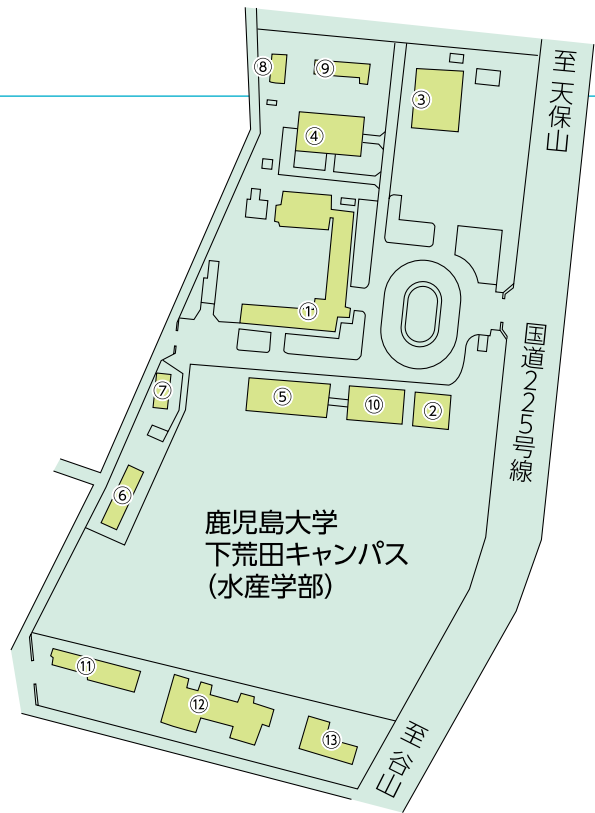
食品工場現場で学ぶ



ウナギ加工工場の見学

● 建物等配置図

- ①1号館
- ②2号館
- ③3号館
- ④4号館
- ⑤5号館
- ⑥6号館（食堂、附属海洋資源環境教育研究センター）
- ⑦実験・実習支援棟
- ⑧大型回流水槽実験棟
- ⑨水圏生物標本棟
- ⑩附属図書館水産学部分館
- ⑪国際交流会館（1号館）
- ⑫ // （2号館）
- ⑬ // （3号館）



● アクセス

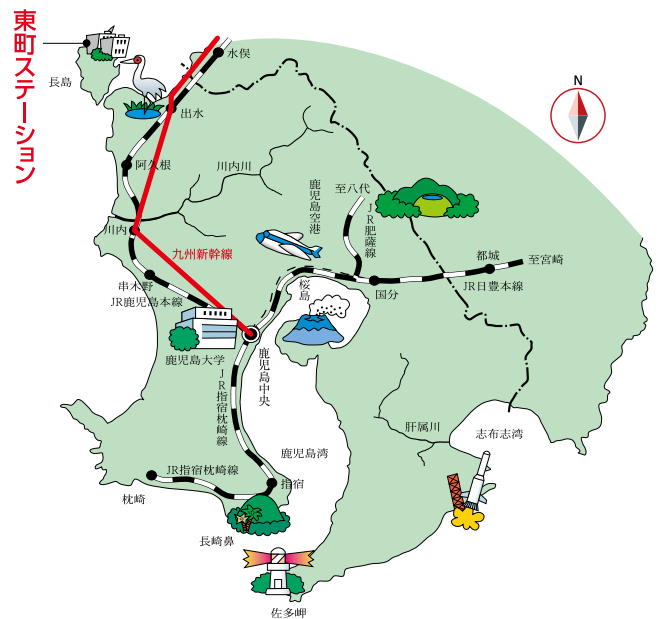
バス利用〈鹿児島中央駅乗車〉

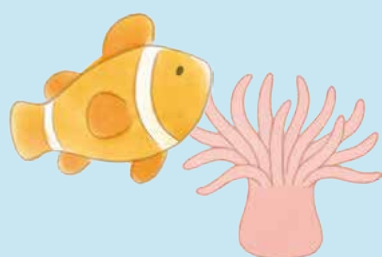
市営バス 11 番線（鴨池・冷水線）
「体育館前」下車。徒歩 5 分

市営バス 27 番線（県庁・与次郎崎）
「水産学部前」下車。徒歩 5 分

市電利用〈鹿児島中央駅乗車〉

市電 2 系統（郡元）で鹿児島駅行き乗車し、「高見馬場」
で市電 1 系統（谷山）へ乗り換え。
「騎射場」電停で下車。徒歩 10 分





鹿児島大学 水産学部



Faculty of Fisheries
Kagoshima University

〒890-0056 鹿児島市下荒田4丁目50-20
TEL 099-286-4111 (代表)

